

株式会社大川技研

代表取締役 北川大滋

弊社は平成2年に石油化学や製鐵所プラントの設備診断を行う非破壊検査会社として設立しました。

年々増加する設備の疲労劣化に伴う事故が発生するたびに、危険を未然に防ぐための新しい法律が制定されて保守検査としての非破壊検査の必要性が認知され、弊社の業績も順調に推移していきました。時代と共に設備の劣化は金属腐食が代表的なものとなり、検査と防食が密接に関わる時代を迎え、腐食の状況把握からその原因、そして最適な防食システムの提案まで、一貫したサービスの提供ができるような体制が必要と感じて、塗装事業を開始したのが10年前になります。以来、民間プラント設備を対象として、過酷な条件で使用される設備の防食方法や延命工法、漏洩部の応急補修などの工法を提案し施工してきました。いろいろな樹脂を取り扱う中でポリウレタ樹脂と出会い、超速硬化や弾性物性などの性能に惹かれポリウレタの吹き付け機を購入し、試行錯誤しながらプラント設備への適用方法を検討し提案してきました。



3年前にレジテクトBNに加盟させていただき、ダイフレックスSVの皆様や会員の皆様との情報交換を通してレジテクト工法を用いた水路補修工事や水槽防食工事などの公共工事にも実績を積み重ねてまいりました。

今後も弊社の特色である診断と補修の相乗効果を生かし、レジテクト工法の販路拡大に精進していきたいと考えております。

最後にレジテクトBN会員の皆様のご健勝とご多幸をご祈念いたします。



本社社屋

株式会社本村工業

代表取締役 本村俊雄

弊社は父本村義人が昭和48年本村ラス防水工業として創業、昭和57年に榎原神宮に隣接する現在の所在地に株式会社本村工業を設立し防水・防食の専門工事店として現在に至っております。現在の主たる事業である超速硬化ウレタン吹き付け工事につきましては、その先進性・将来性に着目し他社に先駆けて施工機械を導入し業界に参入したことは間違いではなかったと確信いたしております。この事業につきましては20数年前建築関連工事の工法・材料しかなく限られた市場での営業活動に終始せざるをえなかった頃を思うと現在の土木・建築分野に対する豊富な工法と材料の存在は我々専門施工業者にとっては大変有り難く又心強いものであり、その間のメーカーの開発努力については感謝の念に堪えません。建設業界が工期の短縮・コストの削減・環境に対する配慮等々を声高に叫ばれる昨今、レジテクト工法は大変タイムリーな工法であると確信すると共に、弊社としては持てる技術力を発揮し施工分野における技術革新に協力しメーカーと一心同体となり、より一層市場の拡大と拡販に注力しなければならないと痛感しております。現在日本は、米国のサブプライムローン



破綻を発端とする不況が好転しないまま我が国としては戦後初めての政権交代による変革の嵐の真ただ中であり、そのことは我々建築業界に生きるものにとっては決してフォローアップではありませんが弊社は創業当初からのモットーである（妥協せずクレームのない施工）を継続実践し、(株)ダイフレックス様のご指導を仰ぎつつレジテクトBN会員として恥ずかしくないよう活動いたしていく所存であります。

レジテクトBN会員各位様におかれましては今後共、より一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますと共に会員各社様のご隆盛を謹んでお祈り申し上げます。



本社社屋

発行/レジテクトBN本部
小倉・藤本

株式会社 ダイフレックス
〒163-0823 東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル23F
TEL: 03-5381-0666 FAX: 03-5381-0670
MAIL: resitect@dyflex.co.jp
URL: http://www.resitect.net/index.html



第22号 掲載内容

- P1 新年のご挨拶/堺水道展初出展
- P2 BT-JW工法採用 (岩手県・東京都)
- P3 下水道新聞にBT工法紹介/ポリテックC工法採用 (東京都)
- P4 BT-C・D工法採用 (茨城県)
- P5 BT-T工法紹介 (長野県) / CVスプレー工法紹介 (東京都)
- P6 RT工法紹介 (富山県) / RT工法採用広がる (北海道)
- P7 コンクリート防食技士講習会実施 (東京都・大阪府)
- P8 BN加盟企業紹介 (株式会社大川技研/株式会社本村工業)

新年のご挨拶

謹賀新年

レジテクト通信(新年号)の発刊に際し、一言ご挨拶申し上げます。新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのことと存じます。

レジテクトBN会員、SQSシステム工法協会の皆様ならびに関係者の皆さんには旧年中、一方ならぬご高配にあずかり誠にありがとうございました。

昨年10月より弊社「レジテクト事業」の担当役員の異動に伴い、私、三浦がこの事業を担当させて頂くことになりました。微力ながらレジテクト事業のさらなる発展に専心努力いたす所存でございますので、今後ともご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



さて、我々が関連する建設業界は新政権の発足に伴い公共投資の縮小または景気後退による民間投資減少の影響を受けしばらくは厳しい状況が続くものと思われまます。

しかしながら、皆様ご承知の通り日本のコンクリート構造物に対する考え方は既に「スクラップ&ビルド」から「構造物の長寿命化」の時代に移行しており、今後「改修市場」はさらに大きなマーケットに成長することは確実です。また、構造物の新設時にも長寿命化を図るために「予防保全」への対策も叫ばれ始めております。このように構造物への保護・防水のニーズは増大しており、大きな期待ができる市場となっております。

弊社、レジテクト事業におきましても、このような時代のニーズに迅速に対応するために、弊社の有機及び無機材料技術、工法技術を生かした付加価値の高い商品開発の推進やメーカーの川上への設計活動の推進など積極的に取り組んでゆき、構造物保護/防水システムの普及を通じて皆様のお役に立てるよう努力する所存でございます。

皆様の益々のご発展を祈念しまして新年のご挨拶とさせていただきます。

株式会社 ダイフレックス
専務取締役 三浦 吉晴

『堺水道展』に初出展(大阪府)

大阪府堺市金岡公園にて平成21年11月11日~12日の2日間「第78回日本水道協会総会」の日程に合わせ堺水道展(第43回水道資機材展示会)が社団法人日本水道工業団体連合会(水団連)主催で開催されました。この会は、水道産業界の最新技術情報を事業者の方々に紹介する水道用資機材の展示会で春秋の2回開催されています。ダイフレックスとしては今後の事業展開を見据え、平成21年10月1日に水団連に入会致しました。入会したことにより、今回堺市での展示会に初めて出展させて頂きました。出展ブースは、主に機械・プラントメーカーが多く89を数えました。初日あいにくの雨の中ではありますが、日本水道協会の議事終了後には出席者の方々が多数ご来場されましたし、翌日も議事・シンポジウム終了後にご来場頂きました。



水道展出展状況

ダイフレックス・レジテクトのブースは水団連主催と言う事もあり、BT-JW工法を中心としたレイアウトとなりました。ポリウレタの硬化時間の短さを体験し、ポリウレタ樹脂をライニングしたコンクリート平板に強制的にクラックを入れ上部に水をいれた筒を置き水漏れが無い事も確認して頂きました。ご来場頂いた地方自治体・各プラントメーカーの方々に、レジテクトBT-JW工法の良さをご理解頂いたものと確信しております。今後レジテクト事業の中心に必ずなるであろう防食分野に今回のような出展ができた事は、ダイフレックスやBN企業様において非常に有意義であった事と思います。ダイフレックスは水団連の一員として研修会や各活動に参加し、今後の水道産業界のお役に立てるよう研鑽をして参ります。

【レジテクトグループ東京支店 課長 大西政幸】

鮭鱒ふ化場補修工事にレジテクトBT-JW工法採用！

鮭鱒増殖施設は、鮭鱒の卵を孵化させて放流するまで成長させる施設です。天然鮭の回帰率は、0.5%と言われていた。これに対し養殖孵化鮭の回帰率は4%とされ天然鮭の8倍となることから、鮭漁に大きな影響を及ぼす施設となっています。本施設では、40,000,000尾～50,000,000尾の鮭を孵化・養殖しているそうです。

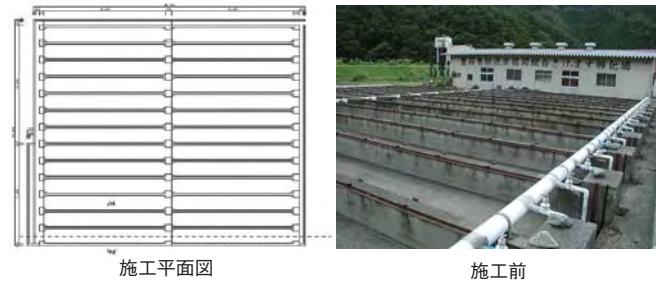
今回の工事では、施工主からの要望として『鏡面仕上げ』で『変色しないこと』がありました。ポリウレタは、元々変色することから、程度問題で解決の道を探りましたが、指定した色が変わるのが好ましくないとのことで『変色しないこと』に関しては、上水用トップコートに塗ることにより解消しました。『鏡面仕上げ』に関しては、ポリウレタ吹きつけ時のミストをいかに無くするかを考えました。その結果、非常に手間は増えますが、下記の通りで施工しました。

- ① 一列ごと完全に養生を行いミストを隣の列に飛散させないようにした。
- ② 床を最初に仕上げ、ポリウレタ硬化後ベニヤ養生して立上りを施工した。
- ③ 吹付け方法はガンを切らずに行い、立上りは腰を屈め吹付け角度が90°に入るように行った。

仕上りは、トップコートを塗ったこともあり綺麗に仕上がりました。

工事期間中には、大型の台風があり全部に架けた仮設屋根を撤去したり、毎朝結露の水拭きから始まるなど水に悩まされ続けましたが、何とか工期内に納めることが出来ました。

今後の課題は、素地調整後の結露対策ですが、BN本部とともにその対策を構築していきたいと思えます。



施工平面図

施工前

【株式会社テラ 三浦顕滋郎】

工事名称：平成21年度鮭鱒増殖施設整備工事
 施工地域：岩手県釜石市
 工期：平成21年9月～10月末
 工法：レジテクトBT-JW工法
 (トップコート仕様)
 施工会社：株式会社テラ
 施工規模：1,256㎡



レジテクト5000吹付状況



施工後



施工後

中水(再生水)のポンプ所内面ライニングにレジテクトBT-JW工法採用！

本工事において防食ライニングを行う汐留第2ポンプ所は、中水(再生水)を近隣のビルへ送水するポンプ所です。

本工事は、工期が短く、伸びのある材料が要求されていることから、レジテクトBT-JW工法が採用されました。元請から明け渡された下地は、目違い等の下地処理が不十分であった箇所もあり苦勞する部分もありましたが、当社は防食・防水被覆材の吹付け施工の先駆者としての長年の経験と施工技術により予定の工期内に終わらせることが出来ました。



施工前

施工後

またレジテクト5000(JW)は、他社のポリウレタ樹脂よりも硬化速度が遅く、吹付け施工が容易に行えるので、工期短縮に繋がったと思います。但しピンホール等の軽微な補修時に使用する補修用の手塗り材の色が現在グレー色しかなく少々苦勞したので、レジテクトBT-JW工法に使用するレジテクト5000(JW)のブルーに近い補修用の手塗り材を取り揃えていただきたいと思います。

今後も株式会社ダイフレックスと技術面等いろいろな部分で協力し合いながらよりよい工法にし、今後も物件受注に向け営業活動を行っていききたいと思います。

【株式会社スバル 課長 金城英人】

工事名称：汐留第2ポンプ所建設その18工事
 施工地域：東京都港区
 発注者：東京都下水道局
 施工時期：2009年11月
 工法：BT-JW工法
 施工会社：株式会社スバル
 施工規模：約1,757㎡

日本下水道新聞社にSQSSA レジテクトBT工法を紹介

特集 「民間企業開発の防食対策技術の最新動向」

SQSシステム工法協会は、コンクリート保護に関して「土木系材料技術・技術審査証明書」等をベースに顧客が希望しているシーズやニーズを具現化して、新工法を開発、特許等を取得することを目的としています。既に多くの工法、特許を出願しており、これらを応用・活用しNETISや高速道路関係や東京都建設局など各自治体において多くの新技術・工法登録を行なっています。こうしたノウハウを生かし、会員は、既に多くの実績がある「防食部会」他、4つのセグメントに分類、各セグメントで日々新工法の開発に努力しています。

下水道コンクリート防食新技術に関しては、日本下水道事業団の「防食技術マニュアル」の「性能照査型」に沿って、「防食部会」で新工法を検討し、高性能防食材(工法)を開発しています。

下記のデータは平成20年10月から、実暴・浸漬テスト(調整槽・濃縮汚泥槽)を開始し、既に1ヵ年が経過したものです。(表・写真参照) 現在、一部を除き大きな変化は見られず、新素材として特に「無機塗材」に注目しています。

又、その他素材(工法)を含め日本下水道事業団(JS)と共同研究を開始しています。その共同研究については、レジテクト通信次号で詳細に紹介します。

【レジテクトグループ東京支店 課長 小倉克之】

浸漬テスト防食材8種類

No.	品名	塗材の種類	浸漬初期重量(g)	前回重量(g)	今回重量(g)	初期との増減±(g)	結果
1	BT-D工法	PU樹脂	498	499	501	3	変化なし
2	ポリテックD工法	EP樹脂	492	493	493	1	変化なし
3	ポリテックS-D工法	EP樹脂(新)	485	486	486	1	変化なし
4	レジテクトVE-D工法	VE樹脂	530	531	531	1	変化なし
5	レジテクトVE-D工法	VE樹脂(新)	558	559	559	1	変化なし
6	セラセックス	無機材	428	436	438	10	サンプルとの衝撃により一部にクラック有
7	スーパーセラ	無機・有機塗料ハイブリッド	433	443	444	11	前回発生した透明なブリストア有
8	耐酸モルタル単膜仕上げ	アルミナ系	432	442	443	11	変化なし(黒色)



汚泥濃縮槽



標準仕様サンプル8種類×3箇所

エポキシクロス工法「ポリテックC工法」採用

町田市下水道の人口普及率は84.4%に達して、鶴見川クリーンセンターの一日の処理水は、約3万数千トン(町田市全体では約12万トン)と膨大な水量となっており、これからも下水道整備を進める事により処理水の増加が見込まれています。

当物件は、元請会社の防食ライニングに予定していた予算が厳しい中、材料メーカーである株式会社ダイフレックスと施工会社である当社がお互いの協力しあって受注出来た物件です。材料は、従来のガラスクロス入りのエポキシライニングでしたが、長年培ってきた当社の技術と作業性の良い材料であったため、工期を短縮することができました。

今後も防食ライニングの予算は、価格競争で厳しいとは思いますが株式会社ダイフレックスと協力しながら受注に向けて邁進していききたいと思います。

【株式会社レジワーク 東京支店長 小山隆二】



ポリテックC上塗状況

工事名称：町田市鶴見川クリーンセンター水処理設備工事その9
 施工地域：東京都町田市
 発注者：下水道事業団
 施工時期：2009年7月
 工法：ポリテックC工法
 施工会社：株式会社レジワーク
 施工規模：544㎡

鹿嶋市浄化センターにレジテクトBT-C・D工法が採用

鹿嶋市の汚水は下水管によって集められ、鹿嶋市浄化センターできれいな水となって海に流されます。当浄化センターの処理方式は標準活性汚泥法といって、大規模処理方式です。補修工事としては事前調査も含め特に防食施工業者の腕の見せ所です。当施設の紹介は次の通りです。

【運転開始】昭和60年10月 【敷地面積】86,400㎡ 【処理能力】14,320m³/日
 【処理人口】29,816人 【排除方式】分流式 【処理方式】標準活性汚泥法
 【平成20年度水質】BOD流入水251 → 処理水5.1 (年間平均値 単位：mg/リットル)

今回のライニング工事は、最初沈殿池（下水をさらにゆっくり流して、沈砂池で取り除けなかった細かいゴミを取り除き、ドロ等をできるだけ多く沈めます。）と汚泥処理施設（汚泥貯留タンクへ集められた余分な汚泥は、脱水機で水分を除いて、資源リサイクルなどに有効利用しています。）をポリウレタ工法でライニングしました。

「下水道コンクリート構造物の腐食抑制技術及び防食技術マニュアル平成19年7月版」に基づき施工を行いました。実は私のパイプルとしているのはコンクリート防食工事施工技術者必携の「下水道コンクリート防食工事施工・品質管理の手引き（案）平成20年7月」です。私自身が専門技術者となり、事前調査ではBN本部にも協力を得て各種測定を行いました。今回の調査では、当社で建研式引張試験・シュミットハンマー・フェノールフタレイン測定・鉄筋のかぶり調査等を行いました。今後のBN本部レンタルシステムに鉄筋探査機もラインナップしていただければと思います。

事前調査に基づいて、超高圧（ウォータージェット）のはつり深さも決定、後は下水道事業団マニュアルに基づいたいつもの管理手法で現場は施工していきました。特に今回の工事では、下記の点に苦労しました。

- 1 天気予報にない雨が夜間に何度も降り、水処理に手間取った。
- 2 一部の狭隘部に対して施工に技術を要した。
- 3 施工場所が1箇所ではないため、吹き付け機の配置が事前計画通りに行かなかった。
- 4 湿度の高い日が続く、換気に工夫を凝らした。
- 5 水路内は、配管が多く養生技術が必要であった。

元請&一次請負業者には様々な場面で助けていただき、またBN本部にもポイントで協力を得た中で、工事は無事工期内に終了、仕上がり等上々の出来となりました。

レジテクト本部は、現在、日本下水道事業団技術開発部と共同研究を行っているそうです。公募で選定されたメーカーの材料ということでは私も心強く、ライフラインである浄化施設の防食工事をレジテクト工法で社会に貢献していきたいと考えています。

【東邦ビルト株式会社 工事部 山下直之】

工事名称：鹿嶋市浄化センター建設工事その11	工法：断面修復材及びレジテクトBT-C・D工法
施工地域：茨城県鹿嶋市	施工部位：最初沈殿池及び汚泥貯留槽の壁と天井
発注者：茨城県鹿嶋市（日本下水道事業団）	施工会社：東邦ビルト株式会社
工期：平成21年7月～10月	施工規模：1,040㎡



鋼管重防食にレジテクトBT-T (特)バリアクロン仕上げ工法が初採用！

白骨温泉郷の道路橋鋼管杭の塗装仕様は、元設計が鋼道路橋塗装・防食C-5塗装系でしたが、BN本部と共にレジテクト工法が同等以上の技術提案を行い、仕様変更ができました。提案が成功できたポイントは、①工期短縮②重防食としての土木研究所での実験データ③元設計フッ素塗料以上のバリアクロンの性能（セルフクリーニング）でした。



ライニング施工完了

橋梁施工状況

工程に関しては、下表を参照下さい。

防錆材入りのレジテクトPW-Fカラーは、製鋼工場と橋梁製作現場で1回ずつ塗布しました。直径500mmの鋼管杭にも施工技術で工夫して均一にポリウレタ樹脂が塗布できました。1日でプライマー～トップコートまで仕上げられました。

建設現場は、急峻峡あいな地形での施工の為、杭芯の精度確保に注意を置く中、施工期間が限られており工程管理が厳しい日々が続いています。安全第一に、地域住民とのコミュニケーションを大切にして、これから更に厳しい時期になってきますが、何とか工期内に竣工することが私の管理目標です。

レジテクト工法は、土木分野では特殊で様々な標準仕様（工法規定）を対象とした新技術提案することで今後も新しいマーケットをBN本部と共に切り開いていきます。

【株式会社小宮山 工事部 大和田勝利】

レジテクトBT-T工法 仕様

工程	品名	使用量/㎡
① 下塗り①	レジプライマーPW-F (カラー)	0.1kg
② 下塗り②		0.1kg
③ 中塗り	レジテクト5000 (R1)	2.1kg
④ 上塗り	バリアクロン	0.15kg

工事名称：平成20年度 地域自立・活性化交付金工事
施工地域：長野県松本市
発注者：長野県松本建設事務所
工期：平成21年3月16日～平成21年12月30日
工法：レジテクトBT-T (バリアクロン仕上げ t=1mm) 工法
施工部位：道路橋鋼管杭
施工会社：株式会社小宮山
施工規模：500φ×22.5m×48本 (約300㎡)、最長が22.5m

ニューマチックケーソンへの外防水にCVスプレー工法採用

首都高速道路中央環状品川線は、同環状線の南側部分を形成し、品川区八潮三丁目を起点とし首都高速道路高速湾岸線から分岐したのちに、目黒川と同環状第6号線（山手通り）の地下部分を北上し、目黒区青葉台四丁目にて現在建設中の同環状新宿線及び首都高速3号渋谷線に接続する延長約9.4kmの首都高速道路です。

また本線は、東京都との合併施行方式により、平成25年度の完成を目指して整備を進めている首都高速道路となります。本現場は、本線の内南品川にある換気所の外防水です。換気所の躯体の構築方法は、躯体を地上部で構築した後沈下させていくニューマチックケーソン工法です。当社はその躯体の側壁部をCVスプレー工法の3mm仕様で防水施工を行っています。防水施工は、躯体を沈下させながら行う為、限られた工期で行わなければならない大変ではありますが、当社として2つ目のニューマチックケーソンへの外防水ということもあり、前回の経験をいかしながら施工を行っています。

今後も施工のレベルアップを図ると共にCVスプレーをはじめとしたレジテクト工法を受注できるように営業活動に取り組んでいきたいと思ひます。

【株式会社大阪防水建設社 係長 戸田晴富】

表-1 首都高速道路中央環状品川線概要

起点	東京都品川区八潮三丁目
終点	東京都目黒区青葉台四丁目
延長	約9.4km
道路区分	第2種第2級（自動車専用道路）
車線数	往復4車線
設計速度	60km/h
出入口	1箇所（五反田）
換気所	4箇所（中目黒、五反田、南品川、大井北）
道路構造	トンネル構造 約8.4km 高架構造 約0.6km 擁壁構造 約0.4km



ニューマチックケーソン現場状況

工事名称：中央環状品川線大井地区トンネル工事
施工地域：東京都品川区
発注者：東京都第二建設局
施工時期：2008年7月より開始
工法：CVスプレー工法
施工会社：株式会社大阪防水建設社
施工規模：約6,000㎡

高岡管内道路補修工事にレジテクトRT-H工法採用

施主より、管内の地下横断歩道外部上屋に防水塗装が施されていない箇所は、すべて防水塗装を実施する方針の変更指示がありました。現地調査の結果、地下横断歩道は国道を横断し、歩道、民家にも近接しており、施工時の飛散防止対策の実施が困難な上、小規模（50㎡程度／箇所）の施工箇所が点在している等の要因から、下地処理工にウォータージェット（WJ）工法（濁水回収型）、防水塗装にレジテクトRT-H工法を提案しました。その結果当社の提案が採用される事になりました。

施工は、ピンホールの発生を防ぐ為T-50は2回塗り施工し、1日目レジプライマーPW-F、レジテクトT-50（1回目）、2日目レジテクトT-50（2回目）、3日目レジトップ塗布の工程で行いました。一部立ち上り部、端部等には、粘性の高いレジテクトT-50Nを使用し、下地の状態が著しく悪い施工面には、下地調整工（ダブルテックス）を実施することで、平滑な防水層を形成することができました。

このような地下歩道等屋根防水工は各地にも多数あると思われ、防水塗装としてのレジテクト工法も数多くのマーケットがあると思います。

【株式会社デーロス・ジャパン メンテナンス事業部 高田広行】



地下横断歩道外部上屋全景



施工後

工事名称：高岡管内構造物補修工事
 施工地域：富山県高岡市内
 発注者：国土交通省北陸整備局富山河川国道事務所
 工期：平成21年7月～平成21年12月
 工法：レジテクトRT-H工法
 施工部位：地下横断歩道上屋
 施工会社：株式会社デーロス・ジャパン
 施工規模：地下横断歩道 31か所 計1,680㎡

剥落防止工法（レジテクトRT工法）の採用広がる！

北海道開発局は床版防水で端部の防水仕様に超速硬化ウレタン防水を標準仕様にしておりますが、剥落防止工事でもレジテクト剥落防止工法が採用されています。

今回報告する現場は北海道の日本海側の海岸線にあるロックシェットの補修工事です。昨年今年と2年間に渡り剥落防止工事を行いました。

採用のきっかけはコンサルタント会社に剥落防止工法を説明に行ったところ、施工性（工期の短縮）と部分的な施工も可能なところが高く評価され、またNETISにも登録されていたこともあり、当初他工法で検討していたものをレジテクト工法が逆転採用されました。

現場は日本海に面しており、しけると工事が中断するような施工条件が大変厳しい場所で尚且つ複雑な形状のPC桁で、在来工法では多くの施工日数を要する現場ですが、施工性に優れたレジテクト工法により、工期内に工事が完了し元請からも高く評価されました。厳しい施工条件でも施工能力を発揮するレジテクト工法は着実に施工実績が広がっています。

【株式会社タナカ商事 グループリーダー 惣万哲人】



レジテクト100R1吹付状況



施工後

工事名称：一般国道229号せたな町島歌覆道補修工事
 施工地域：北海道久遠郡せたな町
 発注者：函館開発建設部 八雲道路事務所
 工法：レジテクトRT-1工法
 施工会社：株式会社タナカ商事
 施工時期／施工規模：平成20年11月／608.5㎡
 平成21年10月／188.4㎡

平成21年度「コンクリート防食技士」講習会及び検定試験を実施

一般社団法人 日本コンクリート防食協会（以下「日防協」）は、本年度創設したコンクリート防食技士の講習会と検定試験を実施しましたので、報告致します。

会場：東京・大阪
 講習会日時：東京会場／平成21年10月21日 受講者数128名
 大阪会場／平成21年10月23日 受講者数103名
 検定試験日時：東京会場・大阪会場共に平成21年10月31日
 合格者発表：12月末（予定）



講習会の様子（東京会場）

1. 「コンクリート防食技士」資格の背景

下水道施設のコンクリート防食工事では、日本下水道事業団（以下J S）の防食マニュアル（平成19年7月版）に10年保証を確約し、性能照査型を明記したことに伴って、その設計・施工・品質管理に関して、請負者（元請会社）にその責任者として「専門技術者」を選出させ、常駐することを義務付けました。既に、各工法協会（会社）では3年以上の経験者で協会が実施する資格試験に合格した者をJ Sマニュアルにある「専門技術者」として認定しています。（日本ポリウレアスプレー工法協会や全国上下水道エポキシ工事業協会が実施しているライセンス）

しかしながら、工法協会単独の資格認定試験よりも、施工・品質管理により高い管理能力が要求されるようになってきた今日、「日防協」は優れた管理者の育成を目指し、「コンクリート防食技士」制度を創設することとしました。この制度は本年度創設した制度の為、当面は塗布型ライニング工法を対象にしますが、今後シートライニング工法やモルタル工法についても順次取り組んでいく計画です。

2. 「コンクリート防食技士」の位置付け

「コンクリート防食技士」は「日防協」が実施する技術検定試験に合格した者に与えられる技術資格の称号です。技術検定試験は、コンクリートの基礎知識、コンクリートの劣化とメカニズム、コンクリート防食の工法と使用材料の基礎知識、コンクリート防食の設計、施工、品質管理、及び検査などに関して日常の技術的業務を遂行できる能力を持つ技術者を「コンクリート防食技士」として認定するものです。本資格取得者は、コンクリートの基礎技術が修得できると共に日本下水道事業団のマニュアルに規定されたコンクリート防食の施工管理に携わる専門技術者を初め、下水道施設など各種水処理関連コンクリート施設の防食工での技術的業務を遂行できる道が開けます。更には、「日防協」は上級資格である「コンクリート防食主任技師」の創設も考えています。

3. ダイフレックスレジテクト（BN会員）との関係

「(社)日防協」にダイフレックス（レジテクト）は賛助会員（3種会員）として登録されています。従って、今回はレジテクトBN会員は受験することができませんでしたが、次年度より正会員（1種会員）に登録し、会員皆様に受験の機会を開くこととしました。

尚、本試験の講習会講師として、レジテクト顧問（防食担当）が参画しました。

【レジテクトグループ 顧問 播磨強】



講習会の様子（東京会場）